

3. 月齢、年齢別でみる起きやすい乳幼児の事故

小さな子どもがいる家庭は環境的に細やかな配慮をする必要があります。危険から子どもを守るために、家の中をもう一度点検してみましょう。

新生児（ねんねのころ）

（起こりやすい事故）

- 枕や布団等の柔らかいものによる窒息
- 上の子が抱き上げようとして落としたり、ものを食べさせたりする。
- 誤って上から物を落とす。

（予防ポイント）

- 赤ちゃんから目を離さない。
- 布団は固めのものを用意する。
- 赤ちゃんの周囲には何も置かない。



1か月～6か月（首すわり～お座りのころ）

（起こりやすい事故）

- ベッドやソファなどから落ちる。
- 誤って上から熱いものをこぼす。
- 熱い湯のシャワーをかけてしまう。

（予防ポイント）

- 一人でソファや椅子などに寝かさない。
- ベッドの柵は必ず上げる
- 赤ちゃんを抱いたまま熱いものを扱わない。
- 風呂やシャワーは事前に湯温を確認する。



7か月～12か月（はいはい～あんよのころ）

（起きやすい事故）

- たばこ、化粧品、コインなどをあやまって飲む。
- 豆などの食品がのどに詰まる。
- 炊飯器や加湿器の蒸気に触る。
- ストーブ、アイロンに触る。
- ドアに指を挟む。



- 浴槽に落ちて溺れる。
- ベランダや窓からの転落
- つまずきによる転倒
- 扇風機のカバーに指を入れる。

(予防ポイント)

- 危険なものは赤ちゃんのそばにはおかない。
- ストーブまわりや、台所等の危険な場所には柵を付ける。
- 浴槽に残し湯をしない。(10センチほどの水深でも子どもは溺れる)
- 浴室には鍵をかける。
- ベランダや窓付近には踏み台になるものは置かない。
- 鋭角な角にはクッションとなるカバーをする。

お出かけ時のポイント

- ベビーカーを使用するときは、赤ちゃんの様子に注意しましょう。
(特に夏季はアスファルトの照り返しが強く、ベビーカー付近の気温が上昇します)
- 子どもと一緒に歩くときは手をつなぎ、建物側に子どもを歩かせましょう。
- 自転車の時は、子どもを乗せたままその場を離れたり、赤ちゃんを抱っこしたまま運転するのは大変危険です。
- 車に乗るときはチャイルドシート、ジュニアシートを必ず正しく取り付けましょう。

